

学校課題研究授業② 9月10日（平成26年度）

学校課題

自分の言葉で考え、伝え合える児童の育成

～一人一人の力を高め、思考を広げ表現できるようにする取組～

本校では、上記のような学校課題を設定しています。伝え合う力を「共感的な人間関係を土台に、豊かな語彙をもち、適切な言葉を選んで自分の考えを広げたり深めたりする力」ととらえ、個に応じた適切な支援にも努め、言語活動を通して思考力・表現力の向上をめざして研究を進めています。

本年度は、話したり書いたりして、自分の言葉で伝え合える力を伸ばしていくために、書くことによって思考力を高めていく手段・方法も研究していきたいと考えています。また、思考力・表現力を豊かにしていくために、言語力の基礎となる語彙力を伸ばせるような指導の工夫や日常活動に生かせる方法についても研究していきたいと思えます。そして、育てたい児童の姿を明確にし、育てたい力の具体策をさらに発展させ、個の特性にも配慮しながら取り組んでいくことで、副題のように一人一人の力を着実に伸ばしていきたいと思えます。

今回は、「調べて発表しよう」という4年生の国語の授業です。視覚障害に関わることを調べ、最後に3年生向けに発表会しようという単元です。本時は、小グループでの話し合いも取り入れながら、調べるための計画を立てる段階の授業でした。

言語活動を充実させるための日常的な取組（詳細は、本校ホームページ「学校課題」の「育てたい力のための具体策」参照）、資料提示や選択可能なワークシートの工夫、小グループでの話し合い活動、タイマーを活用してのテンポよい展開、個に配慮した細やかな言葉かけや支援など、授業者の様々な工夫があり、4年生の子どもたちはいつもにも増して意欲的に取り組み、上学年として成長した学びの姿が見られました。

一方で、子どもたちの主体的な学び合いを生み出す活動の在り方、多様な特性に応じるためのユニバーサルデザインの授業づくりなどが課題となりました。

今回の指導者である宇都宮大学准教授の原田浩司先生からは、次のようなことについてご指導いただきました。

- 個の特性に応じた効果的な支援
- 子どもたち同士の中で学び合い生み出す大切さ
- 多様な特性に応じるための「ユニバーサルデザインの授業」の3つのキーワード（焦点化、視覚化、共有化）
- 支援を充実させるためのアセスメントの必要性

